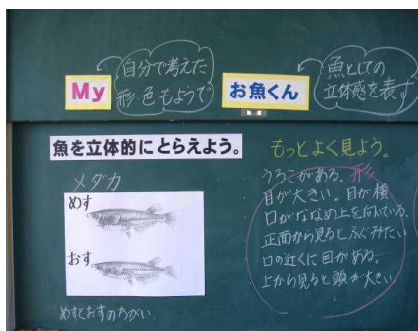


第5学年

My お魚くん

～立体的にとらえよう～

- めあて
- ・魚の特徴を捉え、立体で表すことを楽しむ。
 - ・観察をもとに想像を広げ、魚の形や色を工夫する。
 - ・加工や接着のための材料や用具を正しく使う。
- 準備物
- ・芯の材料（ベニヤ板、芯棒、台座、麻紐）、紙粘土、プラ板、絵の具
 - ・鋸、キリ、小刀、ペンチ、針金、電動糸鋸（教師）



<理科で勉強したことを思い出したよ。でも、上や横から見ると発見があるね。どうしたら、立体的に表せるのかな。>

<やっと芯が出来たよ。次は紙粘土を付けよう。どこをふくらませるといいのかな。口の付け方がむずかしいな。>

<みんな素敵な魚をつくったね。熱帯魚みたいにきれいだね。魚なら簡単に作れると思ったけど、完成させるのはたいへんだったよ。>

| 学習の流れ | 実践上の留意点 |
|-----------------------|---|
| ○メダカを観察し、気づいたことを発表する。 | ・理科で学習したことを思い出せると共に、上や横からも観察させ、新たな気づきをもたせる。 ・形態だけでなく色彩にも目を向けさせる。 |
| ○立体に表すときのポイントに気づく。 | ・みんなで考えながら、「いろいろな方向から見る」「おおまかに形をつかむ」「色の濃淡を捉える」の3つを確認する。 |
| ○芯を作る。 | ・今までの経験を生かし、計画的に正しく木工用具を使うようにさせる。 ・麻紐はしっかり巻き付けさせる。 |
| ○紙粘土を付ける。 | ・なかなか形がつかれない子には、中央部に紙粘土をたくさん付けるとよいことを助言する。 ・ひれは、プラ板またはクリアファイルを用いる。 |
| ○着色する。 | ・背中濃く、お腹薄いことを思い出させる。 ・模様を工夫させる。 |
| ○鑑賞する。 | ・一人一人のよさと共に、みんなの作品を並べた時の水族館のようなおもしろさも感じ取らせる。 |